

平成 29 年度 部局自己評価報告書 (25 : 病院)

Ⅲ 部局別評価指標(取組分)

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限: (23)～(24) 合わせて 7,000 字以内

(1) 全学の第3期中期目標・中期計画への貢献又は里見ビジョンへの貢献とその社会的価値 (23)● **より安定した病院財政基盤の確立**

- ・ HOMAS2 が稼働し、病院全体及び各診療科の損益分岐点、医業利益等が可視化され、更に各大学間のベンチマークが可能となり、会議等でこれらを利用した経営分析資料の活用を行った。
- ・ 新中央診療棟の完成に向け、収入増に向けた手術枠の増枠の検討や、手術室利用時間当たりの手術件数増加に向けた検討など、新中央診療棟開院後の新たな手術室運用の検討を行った。
- ・ 医療材料においては、診療科毎に安価な材料への切替えを継続的に提案することで、経費削減の効果が生じている。さらに、国立大学病院全体の取組として共同価格交渉を行い、現行品より安価な選定品への切替え等を実現することによって、経費削減を推進している。
- ・ 医薬品においては、後発医薬品の使用割合の向上を目指し、病院長主導のもと計画的に採用を拡大したほか、通年で国立大学病院データベースセンターの価格比較やベンチマークを活用した価格交渉及び随時の価格見直しを行うなど、薬剤購入費の削減に向けて取り組んでいる。

● **大学教育改革の支援プログラム等による教育活動の取組**

- ・ 未来医療研究人材養成拠点形成事業「コンダクター型総合診療医の養成」について事業を遂行した。(事業年度：平成 25 年度～平成 29 年度)

事業概要： 本事業は、高度医療の要否を判断し患者をトリアージしうる最新の医学・医療知識を有し、かつ地域包括ケアを統括するためのリーダーシップを発揮し、地域発臨床研究を推進できる「コンダクター型総合診療医」の養成を目的とする。具体的には、東北大学病院と本プログラム参加医療施設である「地域教育拠点」とを ICT で連結し、プログラム受講者である各地域教育拠点の後期研修医・医師に対し、東北大学は専門医療や医療マネジメントに関する専門知識・スキルおよびリソースを提供し、かつ地域発の臨床研究を指導・サポートし、地域教育拠点は実践的臨床トレーニングや円滑な医療マネジメント学習のためのオンザジョブトレーニングを提供する。これにより医師は地域にしながらキャリア形成およびスキルアップでき、さらに本学大学院に入学したうえでこのプログラムを選択すれば、学位取得も可能となる。平成 28 年度のインテンシブコース受講登録は 6 名を得、地域教育拠点と大学を ICT で結んだリアルタイム講義やセミナーを計 28 回実施した。平成 27 年度から医学系研究科医科学専攻博士課程内に大学院コース（「総合診療研究医コース」）を開設し、平成 28 年度は 2 名の入学者を得た（年度目標 1 名）。教育拠点施設追加認定により、東北大学病院も含め教育拠点施設 7 か所、後期研修プログラム協力施設 17 か所との教育連携体制が確立した。なお、平成 28 年度も運営委員会、外部評価委員会を開催し、本プログラムの評価やアドバイス等を得て事業の展開を図っている。

● **医学・医療の発展を推進する指導者的人材と人間性豊かな医療人の育成**

- ・ クリニカル・スキルスラボにおいて、医学部学生・院生、臨床研修医を含む医師、看護師、薬

剤師、介護士、消防職員、事務職員、学校教職員等を対象として、急変対応、中心静脈カテーテル挿入、内視鏡手技、心音・呼吸音聴診、看護技術全般、喀痰吸引など広く医療手技に関する多くのシミュレーション・トレーニングを実施した。

平成 28 年度のスキルラボの利用者は 17,568 名であり、前年度の 15,269 名と比較して約 15% 増加した。利用者の 49.8% は学外者向けや学外者の企画の利用で、施設の地域開放が進み、医療者の技術向上に貢献した。

さらに、スキルラボを利用する医療・介護人材及び指導者養成施設整備事業が宮城県地域医療介護総合確保事業(医療分)に採択され、宮城県や東北地方の医療の質向上に寄与した。

- ・ 先端医療技術トレーニングセンターにおいて、「卒前研修で行われるシミュレーター教育」と、卒後研修にて選択肢の 1 つとして行われる実臨床により則した「全身麻酔下のブタを用いた外科手技トレーニング」がさらに有効な連携を持てるよう、初期研修医の為のトレーニングカリキュラム内でシミュレーター実習の枠を作成・確定した。
- これまでの研修医や上級医の医療手技トレーニングに加え、医学生に対するシミュレーション教育を念頭にいたウエットラボトレーニングを積極的に行い、特に外科系医学教育において、質の高い医療人養成の一層の向上に寄与している。

(平成 28 年度の利用総数 : 1,589 名)

(内訳) ウエットラボトレーニング利用件数 : 18 件、利用者数 298 名

ドライラボトレーニング利用件数 : 28 件、利用者数 336 名

見学者 955 名

(2)[前記③]のほか東北大学グローバルビジョン(部局ビジョン)の重点戦略・展開施策の達成状況又は部局の第3期中期目標・中期計画の達成状況とその社会的価値(④)

● **特定機能病院の承認要件等の見直しに対応した医療安全体制の整備**

特定機能病院の承認要件等の見直しに対応した医療安全体制の整備を、以下のとおり計画的に進めている。

*医療安全管理責任者の配置 :

平成 28 年 4 月 1 日副病院長(医療安全担当)を配置

*医療安全管理部門の体制強化 :

専従の医師、薬剤師、看護師は従前から配置

*診療内容のモニタリング等 :

平成 28 年 7 月 28 日の医療安全推進委員会で実施項目を決定、順次実施している

*全死亡例報告等 :

入院患者の死亡報告は平成 27 年 10 月 1 日から実施

*内部通報窓口の設置 :

平成 28 年 9 月 29 日病院内に設置

*医薬品安全管理の強化 :

医薬品安全管理手順書を作成し実施、担当者の指定は平成 28 年 9 月 29 日に内規で制定

*外部監査 :

平成 29 年 1 月 10 日医療安全監査委員会規程を制定、委員を決定し、平成 29 年 4 月 1 日任命

*特定機能病院間相互のピアレビュー :

国立大学病院間で平成 29 年度から実施予定

*インフォームド・コンセント :

平成 28 年 9 月 29 日責任者を配置し、規程を制定

*診療録の確認等の責任者の配置：

平成 28 年 9 月 29 日責任者を配置、診療録等の記載内容等の確認を定期的実施

*高難度新規医療技術の導入：

担当部門、評価委員会の設置及び内規の制定、平成 29 年 4 月 1 日設置

*未承認医薬品等を用いた医療の導入：

担当部門、評価委員会の設置及び内規の制定、平成 29 年 4 月 1 日設置

*職員研修の必須項目の追加：

平成 28 年 10 月 27 日インフォームド・コンセント研修実施、平成 28 年 11 月 1 日医薬品安全研修実施、平成 28 年 12 月効果測定トリビア研修実施、平成 29 年 4 月以降その他の新規研修を計画実施予定

● **生命科学・医工学分野の基礎研究成果の実用化及びトランスレーショナル・リサーチ (TR) の推進**

- ・ 学内の関係 16 部局が組織横断的に連携するメディカルサイエンス実用化推進委員会が中心となり、医薬品、医療機器等の実用化を目指す革新的なシーズの支援を行っており、平成 28 年度は「数値流体力学による脳動脈瘤発症リスク診断法の開発」など日本医療研究開発機構 (AMED) 事業における革新的医療技術創出拠点プロジェクトによる開発シーズ登録数を対 27 年度比で 40 件 (21%) 増加させた。
- ・ 臨床研究講習会を年 6 回、臨床研究教育セミナーを年 1 回開催した。平成 28 年度からは学外への周知により学外から 2～4 人参加するようになった。また、従来の e-learning による動画視聴に加え、平成 28 年度からは確認テストの合格により受講を認定し、教育の質の更なる向上を推進している。
- ・ 平成 28 年度から、臨床研究のモニタリングに従事する予定の職員を対象として、モニタリングの知識、実践的な技術を習得することを目的とした講習会を 3 回シリーズで 1 回、2 回シリーズで 1 回開催した。
- ・ トランスレーショナルリサーチ (TR) セミナーを 9 回開催した。この TR セミナーでは、主に学外から講師を招き、医工連携、産学連携、知的財産など、トランスレーショナルリサーチに関連した様々な分野の内容について講演を行った。本セミナーは、本学医学系研究科の大学院生の単位取得のための授業として認定されていることに加え、本学職員、外部へも公開している。
- ・ 日本医療研究開発機構 (AMED) と連携し、主に本学以外の臨床研究を実施する医師を対象に、質の高い研究計画書を作成し、確実に実行できる研究者の育成のための技術研修を含めた臨床研究・治験従事者研修を本学において開催した。

● **社会に関わった広報体制**

- ・ 患者や医療機関が求める情報を、公式 Web サイトに迅速かつわかりやすく提供するとともに、Facebook や Twitter などの SNS の運用を積極的に活用し、本院の取組や診療に関わる内容を、幅広く提供している。
- ・ 一般市民や患者を対象に、部局横断的な取組を中心に紹介する広報誌「hesso」を年に 4 回 (各 6,500 部) 発行し、全国大学病院、県内関連医療機関等の施設 3,300 箇所に送付するとともに、仙台市内文化施設、図書館、フリーペーパー店や書店ラック等にも設置した。
- ・ 平成 28 年 8 月より、FM 仙台の番組「hesso ラヂオ」にて、毎週木曜に約 10 分間、当院のスタッフが出演し、医療の知識や最新情報に関して、地域の皆様へ紹介している。

- ・ 医療や健康に関する様々なテーマについて、当院のスタッフが話題を提供し、参加者とコミュニケーションをとりながら健康について考える小規模なイベント「からだの教室」を、5月、7月、10月、3月の計4回開催し、幅広い層の一般市民の参加を得た。イベントの様子はWebサイトにも公開している。
 - ・ 河北新報に、当院教授（診療科長）による連載記事「気になる症状 すっきり診断」をスタートした。様々な症状と受診すべきケースなどを分かりやすく紹介している。
 - ・ プレスリリースや取材対応等、メディアリレーションの強化を図り、市民の理解と協力を得るために、双方向性を重視した積極的な情報発信を展開している。
 - ・ 一般市民に本院の診療内容を広く公開し、その理解と支援を得て、地域医療連携意識を啓発することを目的として、毎年、「東北大学病院市民公開講座」を開催している。平成28年度は仙台国際センターを会場として、6月に「いつでも楽しく食べるために～摂食嚥下障害への取り組み～」、11月には「看護の現場をのぞいてみませんか」をテーマに開催し、県内外から多数の市民の参加を得た。平成29年6月には、「働く世代のがん治療」をテーマにより開催を予定している。
 - ・ 平成29年4月から、院内ホスピタルモールへ新たに設置したピアノステージを活用し、ミニコンサート（入場無料）を定期開催している。第1回目は、プロのピアニストと歌手を招いての公演となり、ピアノの美しい調べとテノールの歌声が響き渡り、患者からも大変好評であった。
- **患者用駐車場整備による患者サービスの向上**
- ・ 本院では、これまで敷地南側に約460台収容の外来患者用駐車場を確保し、外来患者に対するサービス向上に努めてきたが、入院及び外来患者数の増加による慢性的な駐車場不足と、それに伴って発生する病院周辺の交通渋滞が経年の課題となっていた。
- そのため、平成27年1月から新外来患者用立体駐車場（鉄骨造5層6段式、収容台数306台）を敷地北側に建設し、平成28年4月1日から稼働を開始した。
- 積極的な利用促進のPR効果もあり、新外来患者用立体駐車場の利用者は増加しており、これまで長年の懸案事項であった旧国道48号線の混雑が大幅に緩和され、当院へのアクセスも改善されている。